南紀

熊野川　立間戸谷

メンバー:三井(単独)
遡行日:11年4月29日～30日

自分的には恒例のGWの南紀の沢詣で、今年は「立間戸谷」に「旭の川」を加え、1泊2日の山行を2本行う事にした。
「立間戸谷」は小渓ながら巨滝の連続する(登れるものは余りないらしいが。)谷で興味を惹くし、「旭の川」も変化が多い谷でどちらも面白そうである。

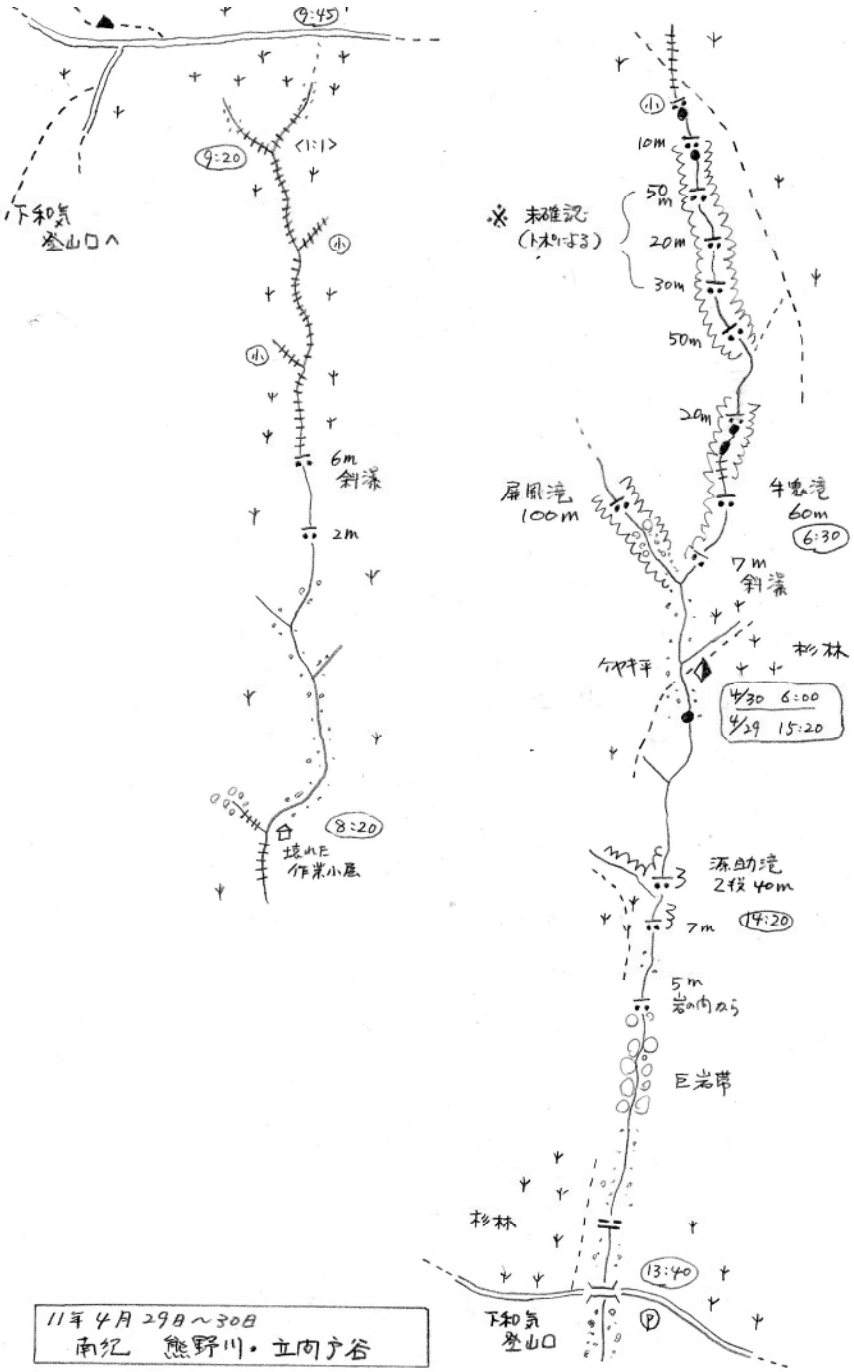
1本目の「立間戸谷」は1000mに満たない「子ノ泊山」から流下している短い沢なので、日帰りも可能だが通常は、1日目は半日行程の1泊2日という日程が取られるようで、前夜ではなく当日の早朝家を出る。
入渓地までざっと460キロ、6.7時間位で行けるか…と考えたが何度も渋滞に嵌り(自然渋滞の他に4.5回も事故渋滞だと。)、予定より大幅に遅れ午後の1時半に何とか入渓地の「立間戸谷橋」に到着した。
橋から見る「立間戸谷」は随分と貧相な小沢で、「この奥にそんな巨滝があるの？」って感じだ。
沢に沿って「子ノ泊山」の登山道があるので下山には都合はいい。ただ、この登山道は余りよくないようで、遭難騒ぎも度々あるようで登山を控えるように、という警告の看板が登山口にある。
杉の植林された登山道を少し歩いて小堰堤を越えた所で沢に入る。
ゴーロの河原を少し行くと巨岩帯になるがハンパじゃない巨岩がゴロゴロしていて、右往左往しながら越えて行く。
両岸が少し狭まり、7mほどの滝を越えるといきなり巨瀑「源助滝」2段40mが姿を表す。
まるでコンクリート壁のようなつるっとした巾広のスラブ壁から瀑水を落としていて中々見事な滝だ。暫し見惚れてしまう。
右岸の垂壁に沿って巻いていくと登山道にでるのでそれを辿る。滝を越えたところで沢に戻ってもいいがゴーロ状が続いているのでそのまま登山道を行ったほうがいいかも。
登山道が沢を横切るところが「ケヤキ平」、本日のテン場予定地だ。小広い河原で、石がゴロゴロしていて余り快適とはいえないが杉林があるので焚き火の薪には困らないのはいい。
杉林の中にツエルトを張り、今年最初の焚き火。太い倒木に腰を下ろし、揺らめく炎を見つめ、たった1本の酒缶をちびちびと口に運ぶ。
語り合う相棒がいない一抹の寂しさを感じない訳ではないが、無心のまま時が過ぎるに身を任せるのもいい。
この日は他に誰も来なかった。考えてみれば折角のGW、地元の人は遠くの山に行くだろうし、遠くの人はこんな沢には来ないだろうしね。

翌朝、曇り勝ちだが今日の予報は悪くない。手短に支度を済ませ出発。
ゴーロを行くと間もなく二俣。右が本流なのだが左の支流の奥に100mの大滝、「屏風滝」がある。で、ザックを置い

て空身で見に行く。
巨岩の間をセカセカと5分も行けばその巨瀑と御対面だ。
さすがにでかい。増水期に見たらその迫力は大したものだろうなぁ。
戻って本流を進むと丸くえぐれた釜があり某記録には「中華鍋の釜」などと記されている。そのすぐ先に20mの斜瀑。左岸から簡単に巻く。
続いて50mの直瀑の大滝。細目だが美瀑だ。
左右巻けるらしいが通常は右岸の急なリッジを木登りして落ち口の高さまで登り、そこから10mのザイルトラバースで落ち口に抜けるらしい。滝口から落ち口の辺りを観察するが少し嫌らしい感じ。（無論、登ってみなければ判らないが…。）
取り付きのリッジもここまでの巻きの感じでは草付きも潅木もイマイチ安定していない。登るなら取り付きからロープを使用したほうがいいかも…。といって取り付きからロープでは登り返しなど面倒だ。相棒がいれば何も問題はないがこういう時に単独は面倒になる。で、迷ったがここは左岸の巻きとする。
巻き途中で落ち口に近づこうとするも垂壁に阻まれ、上へ上へ追い上げられる。暫く上って行くと踏み跡に出るが、巻き道の踏み跡にしてはハッキリし過ぎてるなぁと思ったら何の事はない、下からの登山道だった。
登山道は緩く下っていて直ぐに沢を横切っていた。この間、沢は短い区間だが50mの滝の上にも20m、50mの滝があるらしい。これらも登れない滝のようで、巻くのはいいが滝を見もせず巻くのでは気分としてはヨロシクない。やはり右岸からの巻きのほうがよかったようだが今更後の祭りってか。
直ぐ先が二俣状で、左岸側に朽ちた作業小屋があった。左は支流、本流はこの小屋を巻くように右に回りこんでいる。
またゴーロ状となり、暫く遡って行くと6mの斜瀑が落ちている。水流横を登って越えると大ナメの始まり。
緩い登り勾配で、蛇行しながら延々と途切れずに続いている。（某記録では1キロとある）
ヒタヒタと歩いていくと奥の二俣。ナメはまだ続いているがここまでくればどちらを辿っても大差ないハズ。僕は右を辿ったが間もなく藪漕ぎもなく稜線沿いにつけられた林道にでた。
林道を 20分ほど歩けば「子ノ泊山」の山頂。別ルートから登ったハイカーでもいるか、と思ったが人の気配はなかった。今年の干支の名前の山なので年初めはハイカーで賑わったらしいが。
スニーカーに履き替え、登山道を下る。地元では遭難騒ぎに業を煮やしているようで、コースの至る所にピンクのテープが垂れていて別に厄介なルートではない。ただ足場の悪い所が何箇所かあり、ハイカーには要注意かも。
無事車に戻って山行を終える。

＊「立間戸谷」は短い沢だが大滝あり、長いナメありで、中々愉しめる。
機会があればオススメしたいが何せ遠いからねぇ。

＊下山時につまらないトラブルがあり次の「旭の川」は中止とした。



11年4月29日～30日
南紀 熊野川・立向ヶ谷